

# 中小だより

いきいき・わくわく・笑顔いっぱい中結城小学校

## 1年間を振り返って

校長 中島 洋子

19日には、皆さんとのたくさんの思い出とともに、6年生45名が中結城小学校を巣立っていきました。6年生の態度や門出の言葉はとてすばらしく、感動できるものでした。リモートで式に参加した4年生と5年生の参加態度も立派でした。また、準備、後片付けも一生懸命行ってくれました。さすが来年度中結城小を引っ張ってってくれるだけのことであると感じました。

さて、今日で3学期が終わります。今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休校や分散登校、夏休みの登校や行事の中止など今までにはない1年となりました。今日、まず皆さんに伝えたい気持ちは、「感謝」です。この一年間、卒業した6年生を含めた314名全員が「命」を大切にして生活できたことへの感謝です。毎日の感染症対策にもしっかりと取り組んできた結果だと思えます。

明日から春休みです。周囲の人への感謝を忘れず、この一年間でできるようになったこと、成長したことを確かめ、来年度に向けて、しっかりとした目標をもってほしいと思います。来年度、一つずつ学年があがった皆さんの活躍を大いに楽しみにしています。

## 立派に巣立った45名！卒業おめでとう！

桜の蕾が膨らんできました。あと数日で中結城小学校も桜満開の絶景となります。

さて、先日の卒業証書授与式では45名の卒業生が有終の美を飾ってくれました。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防のため、規模縮小で行われました。在校生4・5年生はリモートによる教室での参加でした。卒業生は教職員・保護者の前で堂々たる姿で中結城小学校を巣立っていきました。素晴らしい態度で飾った最後に思わず涙腺が緩みました。在校生代表の5年生も、一生懸命な思いを卒業生に伝えることができました。



校歌について3月13日の茨城新聞に記事が載りました。  
「ひびけ 校歌」 県西の小中学校から (記事等使用許可済み)

# 20代の教師が作詞作曲



八千代町立

中結城小

八千代町立中結城小学校(同町菅谷)は、1894年4月20日創立の中結城尋常小学校の流れをくみ、間もなく創立128年を迎える伝統校だ。

校歌は、戦後間もない1949年の創立記念日に制定、発表された。当時共に20代で

為我井弘作詞、谷中武司作曲(1949年)

一、紫匂う筑波嶺の天より降れる陽の恵み/黒土の香や草の色/結城の里にあふれ満つ 二、鬼怒の流れにたたまめば/清冽の水尽くるなし/心を澄ます春や秋/瀬音の響しすかなり 三、ああ山川の護りうけ/日毎に励む学び舎に/清純の気は漲りて/胸豊かなる誇りあり 四、今ぞ明けゆく国原に/自主の光を身にうけて/正しく果たす責任のつとめや永遠に忘るまじ 五、学びの友よもろともにも/ふるさとこの幸讀えつつ/たゆまぬ道の一筋に/胸をはりてぞ行き行かん

同校教師の為我井弘氏が作詞を、谷中武司氏が作曲を担当した。若い教師が校歌を制作する非常に珍しい例だ。

「開校八十周年記念誌(74年発行)に為我井氏(同町立八千代第一中学校長)の回想がある。それによると、当時の江面市三郎校長から「校歌・校訓・校章は学校の歴史と伝統、将来への飛躍を語る象徴である。君ひとつ考えてほしい」と言われた逸話を紹介。重責を託され、校訓「自主・協同・責任・勤労」と、学校を取り巻く自然環境や校訓への思いを乗せた校歌を作り上げた。

その思いは歌詞に反映され、1番の「紫匂う筑波嶺」

や2番の「鬼怒の流れ」、4番にある「自主」「責任」という言葉などに表れている。

昨年は新型コロナウイルスの影響で、校歌披露はほぼなかった。6年生45人を送る卒業式は3月19日に開く。中島洋子校長(58)は「6年生は最後の機会。マスクを普用

しての斉唱になると思う。6年間の出来事を思い浮かべ、思いを込めて歌ってほしい」と願う。下級生ら次の代にも「自然に恵まれ伝統ある中結城小の校歌を、しっかり受け継いでほしい」と話した。

(小林久隆)  
(随時掲載)



八千代町立中結城小の校歌で1、3、5番が刻まれた石碑と中島洋子校長＝同町菅谷